

沖縄鉄軌道・計画案策定プロセス検討委員会

第2回委員会

議事概要

1 日時：平成27年1月6日（火）10：00～12：00

2 場所：県庁11階第1・2会議室

3 出席者

（1）委員

◎東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教授 屋井 鉄雄

○沖縄国際大学 法学部 教授 前津 榮健

沖縄弁護士会 弁護士 玉城 辰彦

東京大学公共政策大学院 特任准教授 松浦 正浩（テレビ電話にて参加）

淑徳大学 経営学部長 廻 洋子

※◎委員長、○副委員長

（2）事務局

沖縄県企画部長 謝花 喜一郎

沖縄県企画部企画振興統括監 具志堅 清明

沖縄県企画部交通政策課長 嘉数 登

沖縄県企画部交通政策課公共交通推進室長 真栄里 嘉孝

4 主な議題

（1）コミュニケーション活動の取組結果について

（2）計画プロセスの運営のあり方について

（3）「沖縄鉄軌道の計画案検討プロセスと体制のあり方」について

（4）今後の予定について

5 議事概要

- ・事務局より議題に沿って資料を説明し、その後質問や意見が出された。
- ・最終的に「沖縄鉄軌道の計画案検討プロセスと体制のあり方」について、委員の了承を得たことにより、県はステップ1を終了しステップ2へ移行する事を判断し、計画案策定プロセス検討委員会はプロセス運営委員会へ移行することが確認された。
- ・検討委員会での主な意見等議事状況は、以下のとおり。

（1）コミュニケーション活動の取組結果について

【副委員長】

- 将来、一番利用する若年層の意見をさらに収集するよう工夫が欲しい。

→事務局

- ・ホームページを活用した意見収集は行ったところである。若年層の意見収集については、オープンハウスの開催場所として学校を活用する等の工夫を今後検討する。

【委員】

- 若い人達の意見をより多く集めるため、大学等で意見を聴く方法を検討して欲しい。
- 寄せられた意見について年齢層別の考え方の違いや傾向を把握したい。特に、若年層の沖縄の将来（観光や経済等）についての考えを知ることも重要。

→事務局

- ・年齢層別の分析について、今後検討する。

【委員】

- 今回行ったコミュニケーション活動は非常に丁寧な取り組みで評価できる。
- 年末に、地元新聞が国の方針（鉄軌道白紙）を報道していたが、事務局のコメントを聞きたい。

→事務局

- ・内閣府に事実関係を確認したところ、平成27年度調査の予算要求を行い継続して取り組む方針であるため、白紙に戻すというような事は無いと明確な回答があった。

→委員長

- ・今後、県外の委員は地元紙の報道内容がわからないため、適宜、新聞報道について、情報提供して頂きたい。

【委員】

- 県民意見で、パネル展の内容がわかりづらいという意見が多く改善が必要。

→事務局

- ・今回、来場者数の確認や資料配付程度の役割で、パネル展の人員を配置した。今後、説明ができる人員を配置したい。

- 展示パネルの文字数が多いような気がする、デザインの工夫も必要。

→事務局

- ・字を少なく中学生などにもわかるような情報提供と、もっと情報が欲しいという人向けの詳しい情報提供の二段構えで対応したい。

【委員長】

- 今回はプロセスに関する意見募集であるため、一般的には理解しにくい内容となっていたため、そのことが要因ではないか。
- 今後、パネル展の案が出来た段階で、委員が事前に確認することも必要。
- パネル内容を説明できる者を配置し、一般的なオープンハウスという形態にしていく事が、県の方向性として示されているので、併せて実施できる場所と日数等検討して頂きたい。

【委員】

- 一方向的な情報提供による意見だけではなく、説明員を配置するなど双方向的な取り組みも重要。
- スマートフォンを利用することで、若年層も活発に意見を寄せることが期待され、双方向の意見集約ができるのではないか。

→委員長

- ・スマートフォンのアプリを活用する等、若年層がコミュニケーションを図るということ方を方向性として考えて頂きたい。

【委員】

- 広告については、昔に比べマスメディアを使う方法は、だいぶ減り、逆にネット広告、特にリスティング広告が中心になってきている。そのような方法の方が、若い人達には受け入れられやすいのではないか。

→事務局

- ・新たな方法についても検討していきたい。

【委員長】

- 認知度調査の若年層回答は、3割程度と結構集まっているが目標どおりの結果か。

→事務局

- ・大学にて、学生にヒアリングを行うほか、商業施設においても、性別、年代をバランス良く取れるよう配慮して行った。

【委員長】

- 寄せられた意見は県のホームページで公表するのか。プロジェクト専用のホームページがあるのか。

→事務局

- ・意見についてはプロジェクト専用のホームページで公表する予定。

【委員長】

- 今後、委員のご指摘も踏まえプロセスを進めていくことで、ご了解を頂いてよいか。

【委員一同】

- 異議無し。

(2) 計画プロセスの運営のあり方について

【委員】

- 各ステップの評価の視点はよく分かるが、具体的な評価方法が示されていない。

→事務局

- ・「情報提供」については、P I手法の実施実績で評価したい。「周知」については理解度での評価を、「対話」については対話の取り組み実績で、それぞれ評価したい。

【委員】

- 「県土の均衡ある発展」という言葉は、表現が古い、別の表現は無いか。

→事務局

- ・21世紀ビジョン基本計画において、「県土の均衡ある発展」を大きなスローガンとしており、沖縄振興の柱でもあることから引き続き用いたい。

【委員】

- 意見は収集するだけでなく、意見の主旨を解釈して、ニーズを整理する工程が必要。
意見数の多少で判断するような人気投票的な捉え方は適切でない。

→委員長

- ・意見整理は貴重な視点であり是非取り入れたい。

【委員】

- 評価は、「妥当」「概ね妥当」「改善を要する」等の段階的評価が多いが、いいっぱいな面があるので、例えば、「10代の意見収集には力を入れる」というコメントまで含めた評価段階が考えられる。
- 評価の正確性、県民から支持を頂ける評価かどうか、その担保も考えないといけないが、学校の成績評価のような形は適切ではない。

【委員】

- ある程度目標値を立て、今がどの程度の段階にいるかを評価し、取り組みを進めるべきである。

【委員長】

- プロセスの評価は、次のステップに進めることが妥当かどうかの評価であり、情報提供、周知、対話、対応の4つの評価の視点について、適切性や説明の妥当性などの評価が重要である。
- 具体的な評価方法については、プロセス運営委員会等が発足してから深めていくということでしょうか。多様な専門的見地から委員会等で指摘をいただき、それを受け取って最終的には計画主体である県が、次のステップに移る判断を行うという役割分担でいきたいと思いますがよろしいでしょうか。

【委員一同】

- 意義なし。

(3) 「沖縄鉄軌道の計画案検討プロセスと体制のあり方」について

【副委員長】

- 昨年度、12月27日付け新聞の「鉄軌道の白紙検討」という報道により、県民の方は非常にショックを受けたと思う。このため、県としてのスタンスを早い段階ではっきり示すことが重要。

→委員長

- ・このような大きなプロジェクトの実現には長い時間がかかり、計画段階にも同様に長い時間がかかる。その中で、いろんな事が通常起こってくるが、一喜一憂せずに、しっかりした考えのもと、ぶれずに行政として検討すべきことを行うこと。
- ・県民と早い段階からコミュニケーションをとって、実現する上での地盤固めをし、将来につなげていくことが重要。

【委員長】

- 資料3「沖縄鉄軌道の計画案検討プロセスと体制のあり方」(案)は印刷物として配布やホームページで公表することを考えているのか。

→事務局

- ・この資料の内容は、今後、県が鉄軌道の検討を進める上での指針であり、「沖縄鉄軌道計画検討プロセスと体制のあり方」というタイトルにてホームページにより公表したい。パネル展等で配布し、県民に見て頂けるよう工夫をし、対応していきたい。

【委員】

- 県民の意見では、景観や雇用の視点多いことを考えると、技術検討委員会の委員は、それらを専門とする委員選定が必要。

→委員長

- ・景観は都市計画の分野でやっている方も結構多いが、自然の景観等いろいろな分野がある。景観、まちづくりという観点は、交通計画、国土計画で読めなくもないが、より専門的な分野として、都市計画や景観のような分野があった方がいい。

→事務局

- ・委員の選定については、県民からの意見に合わせて柔軟に対応できる。

【委員】

- 都市計画、景観の観点は非常に重要。観光客は、何で沖縄へ来るのかというと、海、空と景観が重要になっていくと思う。また、交通インフラは、都市計画、まちづくりと切り離せない関係があるので十分に検討頂きたい。

→事務局

- ・景観という言葉は入っていないが、計画検討委員会の分野である「まちづくり」に関しては、「沖縄県のまちづくり及び都市計画について知見を有する方」と記載している、そこには当然沖縄らしいまちづくりとか観光も含めた事柄も念頭にある。

→委員長

- ・景観やまちづくりに関しては、最重要観点であることは間違いないので、必要があれば技術検討委員会にも加えて欲しい。

→委員長

- ・資料2、3については、ご了解頂いてよいか。

【委員一同】

- 異議無し。

(4) 今後の進め方について

【委員長】

- 資料の内容が承認された。

(5) その他

【委員】

- ニュースレターの内容が詰まりすぎて読みにくい印象を受ける。

→事務局

- ・本日の案は縮小して印刷しているが、実際は、もう少し字が大きくなる。

【委員】

- 文字が沢山あると読まない人が多い。見出しで大凡を把握させるような工夫が必要である。

→事務局

- ・ご指摘のとおり、もう少し字数を減らしながら県民に読んで頂けるよう工夫していきたい。
- 創刊号のニュースレターは全戸配布したというが、見たことが無いという人がいるので配布の仕方を工夫して欲しい。

【副委員長】

- ニュースレターが漏れなく配布されているのか確認する必要がある。
- 宮古・八重山のオープンハウスの会場が、地元住民はそれほど訪れない空港・港ターミナルとなっているため、多くの人を訪れる商業施設等での実施がよいと思う。
- 大学でのオープンハウス実施も協力するので検討頂きたい。

→事務局

- ・ニュースレターの全戸配布は、自治会の協力を得て、自治体広報と併せて配布したが、上手く配布できなかった所もあったかもしれない。自治会の協力が得難い箇所は、ポスティングサービスに切り替える等の取り組みを行いたい。
- ・離島でのパネル展開催場所について、可能な限り商業施設、市役所等での開催を行っていく。また、大学についても構内でパネル展を開催したい。

【委員】

- ニュースレターは、役所の人を書くとは報告書のようにになるのでプロのライター等に書いてもらう方が、読みやすい内容になると思う。

【委員長】

- 委員のご指摘を受け、わかりやすい内容として頂きたい。
- ニュースレターについても基本的に、ご了解頂いたということで、これまでの資料で修正が必要な所は、委員への確認、報告を得て進めて欲しい。

→事務局

- ・委員のご指摘をふまえ修正作業等を行い、ステップ1は終了しステップ2へ移行したい。これに伴い本会のプロセス検討委員会を発展的に解消し、プロセス運営委員会としたい。
- ・これからステップ2へ移行するが、委員からもご指摘があったとおり、沖縄県の考え方をまとめていく大変重要なプロセスなので、今後の委員会運営についても引き続きご指導賜りたい。